会　　誌

第四十二号

平成２２年１２月

大阪市立大学大学院医学研究科
分子病態薬理学教室　　同窓会

『はじめての出展』

山本　研二郎

一昨年の七月から、南海電車堺駅に隣接する讀賣文化センターの油絵教室に通っている。月３回水曜の１時から３時半まで、何を描いてもよく、花や果物などその時々の静物や、旅行に行ったときのスケッチや写真を題材に描く人など自由である。先生は私より１才年上の独身の女性、若い頃「安井賞」を受賞し、現在もいろんな会の審査員をされている。御自宅のアトリエでも教えておられるが、教室の方が先生の目が届きにくいと思って堺まで通っている。
生徒数は現在女性８人男性６人、勿論現役はいない。典型的な大阪人ばかりで、あっちこっちで漫才をやっているような雰囲気なので、下手な新人でも肩が凝らない。イーゼルは教室の備品を借りられるし、個人の道具はキャビネットに預かってもらえる。間隔があくときは、描きかけのキャンバスを自宅に持ち帰って加筆している。

２時間半の間に先生は一巡して、キャンバスの前に座り、あれこれ批評しながら加筆される。折角苦労して描いたところを情け容赦なく別の色に塗り直されることもあるし、先週云われたとおり直したのに、今週は元の色になる理不尽なこともある。若い頃、論文を教授に手直しされ、その通り清書して持って行ったのに、返された論文がまた元の文章になっていたことを思い出す。しかし、ほんの一寸加筆されるだけで、すっかり変わるのは流石プロの腕といわざるを得ない。阿修羅像を描いたとき、右のお顔が唇を軽く噛んでいるのがなかなか思うように描けず、先生にお願いしたところ、ほんの一筆ですっかり変わったのには驚いた。

教室では２年毎に展覧会を開いている。今年の６月第12回の水曜油絵展が、ナンバの戎橋画廊であった。先生は１点、生徒は8～12号で３点ずつ出展することになっている。３ヶ月程前から準備しなさいと云われるが、さて何を出そうか。と云ってもこの２年間で作品がそんなにあるわけではない。一番初めに描いたハンガリーの人形は目付きが悪いし、浜寺公園で遊ぶ孫の絵は松の樹が気に入らない。大津絵の「鬼の念仏」は面白いのだが、全くの模写になってしまったし、ドイツのゾンネンホッフは古い屋敷や屋根はそれなりに描けたが駐車場の車がよくない。結局、阿修羅像とスペインの風車と又兵衛桜を出展することにした。

興福寺の阿修羅さんには何回かお目にかかっている。国宝展ブームの直前だったか、上半身の写真があったので購入した。素人には大勢の前で写生できないし、腰から下の線はむつかしい。何ヶ月もかかって大凡出来上がったところで一旦家へ持ち帰ると「合掌の手がゆがんでいる」とか「ネックレスがまっすぐになっていない」とか、家内の批

評がうるさい。「佛さんの首飾りをネックレスと云うな」と反論したものの、一寸したことが思うように描けないのが素人の悲しさ。まあこのあたりで許してもらうことにした。先生に何度も手を入れてもらったが、ラ・マンチャの風車は気に入っている。ただ構図の右下部分が間が抜けているので、やせ馬ロシナンテに乗ったドン・キホーテを追加したところ一応バランスがとれたと思っている。昨年春、宇陀の友人が又兵衛桜を見るなら今週がよいと連絡をしてくれた。早速道案内してもらったが、石垣の上の古木は流石に立派。描きやすいようなアングルから写真を撮ってもらい、これを手本に10号のキャンバスに描いたが、桜はなかなか手強い。出来上がったのは今年の冬。教室の人達に遅咲きの寒桜ですなと笑われている。

出展の3作が決まると、画材屋さんが画廊まで運搬してくれる。この時タイトルを決めるのだが、これは結構楽しい。阿修羅像は昨年の国宝展であまりにも有名になったので、そのままでは如何にも能がない。「祈り」もありふれているので結局「修行」にした。風車の絵は「ドン・キホーテの幻想」とした。ドウルシネア姫の敵と思い風車に立ち向かう姿から連想してもらおうというねらいである。又兵衛桜は地元の友人の意見を尊重して「大宇陀の春」とした。

展覧会は戎橋画廊で6日間開催されたが、案内のはがきを親族や身近な人にとどけたところ、皆さん義理をたてて見に来て頂いた。会期中は午前と午後2手に別れて3人ずつ来客の対応をする。最終日は5時で終わり、後片付けをしてから近所で打ち上げパーティーをして解散。教室の皆さん3ヶ月程年甲斐もなく騒いでいたが、終わってみればあっけない。次の週、何かの用事で戎橋画廊の前を通ると別のグループが借りていた。売れもしない絵を描く人が大勢いたはると感心している。

追記

小学校の同窓会が今も続いているが、そのなかに女流書家がいる。今年4月末に日仏ミレー友好協会展に公募で出品したところ、賞をもらったという。義理を立て、会場の天王寺美術館へ行ったところ、洋画、日本画、工藝、彫刻、書と大規模なものであった。帰り際に見学者ノートに署名したが、そのせいかどうか一週間ほど前に協会から書類が届いて、来年度（第19回）協会展に応募しないかという。出展要領をみると洋画20号以上200号までとしている。

私は10号までしか描いたことがないが、20号のキャンバスを持って教室へ行けばどんなに冷やかされることか。締切りは来年2月末、さて挑戦しようかどうか迷っている年末です。

『第８３回日本薬理学会年会開催のご報告とお礼』

岩尾　洋

平成２２年３月１６日（火）から１８日（木）にかけ大阪国際会議場（グランキューブ大阪）において日本薬理学会年会を主催いたしました。昭和４４年１２月に上田重郎先生が第４２回を主催されて以来のことです。学会開催準備は先ず会場探しから始めます。約３０００人が参加し、口演会場が９つ、ポスター会場が２つ、機器展示室が１つ必要です。上本町周辺には大阪市関連の施設が多くあり比較的安く借りれますので見て回りましたが、会場数が足りません。上本町のシェラトン都ホテルも借りる必要があることが分かりました。ホテルの会場費は非常に高額でまったく手も足も出ない金額です。次は、大阪国際会議場に当たりました。こちらは２年半後の予定がかなり押さえられており、何とかお願いして日程を決めました。このような大きな学会を主催する事は初めての経験ですので、約８０００万円の予算案を見てもその金額の多さにピンときません。

昨年の４月に大阪国際会議場の担当者から、学会を手伝って頂くコンベンションサービスの会社の選び方として、会社ではなく担当者で選ぶのがポイントと教えていただき、早速に数社に声を掛けました。その中で、積極性、プレゼンテーション、人柄で日本コンベンションサービスの小川原様にお願いすることにしました。結果的には大変よい助言を頂いたと感謝しております。さらに、学会を控えていることから教室付きの秘書として山田佳世子さんの妹の山田祐規子さんにお願いして来ていただきました。さらに三浦教授、泉准教授、中尾講師、塩田助教のスタッフと大学院生の田中さん、川本さん、杉原さん、南野さん、文さん、山下さんを加えた教室員総出で学会の準備にあたることになります。

年会長の仕事のひとつに薬理学会の部会を回り年会の宣伝と協力を要請することがあります。今まで所属して出席しております近畿部会は何の違和感もなく問題ありません。近畿部会以外に北部会、関東部会、西南部会があり、関東部会は近畿部会と同じで年に２回開催され、他の２部会は年１回の開催です。今まで他の部会に所属したことがないので出席したことがありませんでした。今回始めて色々な部会を訪問して、それぞれに違ったカラーがあることが分かりました。関東部会は会員も多く、さぞ活発に活動されていると思いきや、ただ単に自分の発表に来てさっさと失礼するといった感じで、ビジネス的といいましょうか、東京的といいますか冷めていて熱気が感じられませんでした。それに引き換え、富山市で開催された北部会と、愛媛松山市で開催された西南部会は、非常に家庭的で熱のこもった質疑応答があり大変盛り上がった部会でした。松山では学会をちょっと抜け出し「坂の上の雲」の宣伝が目立つ道後温泉の坊ちゃん風呂に浸かり、来合わせておられる薬理学会の会員の先生方と一時を過ごしました。

本格的な学会準備は１１月ころから始まります。その前に一番重要な資金繰りの算段をするため、先ず例年お世話になっている日本製薬工業会に寄付の依頼の仕方を教わりに訪問しました。製薬企業が合併し、外資系の企業が増える中で厳しい状況になりつつあります。大阪大学薬学研究科の馬場教授（元日本薬理学会理事長、現兵庫医療大学副学長）のご紹介を頂き、担当の方にいろいろと懇切丁寧なアドバイスをしていただいた結果、例年と同額の多額の寄付を頂きました。もうひとつの気がかりは会場が少し辺鄙なところで、若い会員の人たちが手ごろに昼食を摂るところがないことです。リーガロイヤルホテルで昼ごはんをとっていただくわけには行かないでしょうから、何とか昼食の手配を考える必要があります。そこで、出来るだけ多くのランチョンセミナーを企画することにしました、しかし、基礎の学会にすんなりランチョンを出していただける企業は多くありません。

何しろ大きな予算ですので約２年前から趣意書を作成して、企業の予算申請に間に合うように機器展示の依頼やランチョンセミナーの依頼の準備をし、１年前から本格的に取り組み、ようやく９社から賛助を頂きました。これで何とかなるかと高を括っていたのですが、どんぶり勘定で予算が足りなさそうなことに気づき、急遽ランチョンセミナーの開催依頼を臨床の先生にもお願いいたしました。さすがに臨床の先生の威力は凄いもので、新たに４つの企業から賛助をいただけました。機器展示の勧誘には専門の企業があり、担当者に電話で催促をして頑張っていただきました。お蔭で少しの黒字の決算となり胸をなでおろしております。薬理学会が社団法人化されてからは年会の収支決算も公認会計士の会計監査を受けます。今までないことですが、赤字になれば薬理学会が補填する必要があり、お金が余れば学会に収めます。多額の寄付を頂いて運営することから大幅な黒字となることはありませんが、収支がちょうど見合うのが理想的です。

シンポジウムは多くの応募があり、どのシンポジウムを採択するかを薬理学会の年会企画委員会が年会会長と相談してセレクションを行います。薬理学会で取り扱うテーマは非常に広く、それぞれが重要ですのでセレクションをすることが難しいので、持ち時間を少し短くして出来るだけ多くの会員に参加して頂くことにしました。一方、一般演題の集まり具合は年会の成功・不成功を左右します。１１月中旬ごろに演題募集を締め切りますが、締め切りの２～３日前から応募が徐々に増え始め締め切りの当日では昨年度の演題数には到達しません。例年のことで、締め切りを延長することを見越して皆さん、私と同じで追い込み型なのか、延長後の応募が急に増加して例年並の演題数が集まりました。その結果、一般口演１８６題、年会優秀賞候補演題１０８題、ポスター演題約５４０題、シンポジウム３７題、特別講演１１題、ランチョンセミナー１３題の応募を頂きました。先ずは数が確保できましたので、次に演題の組み分け作業を行います。１２月中の年内にプログラム構成から組み分けの大よその所を決めて印刷の準備に入る必要があります。演題の募集の締め切りを延長した分だけプログラムの仕分けの時間がなくなり約２週間で組み分けと座長を決めて、座長の先生方に依頼のメールを送りま

す。これが非常に大変で、泉准教授が一手に引き受けて、教室員が一丸となり手際よく進められました。一番手こずったのが座長の依頼です。腎臓と循環の関連演題の座長に関しては大体検討がつきやすく比較的簡単に決めることが出来ました。しかし、中枢関係の演題は数が多い上に、私が座長を依頼するべき先生方の面識も少なく四苦八苦して座長の候補者を縛りだします。ところが学会期間が卒業式に掛かっていることが多く、せっかく見つけた先生にお引き受けしていただけないことが起こります。次から次へと依頼を繰り返し、多いときには５～６回に及びました。仕舞いには依頼する先生方の専門分野に気を配る余裕すらなくなってしまいました。根気良く依頼を続けていただいた泉先生に感謝です。

学会本番では、大阪薬科大学の松村先生、大野先生と高岡先生、滋賀医科大学の岡村先生、大阪医科大学の高井先生、大阪大谷大学薬学部の雪村先生、徳島大学の玉置先生、香川大学の西山先生、奈良県立医科大学の吉栖先生、大阪大学薬学部の東先生の各教室の先生方と、さらには各先生方の大学院生に大変助けていただきました。教室の先輩方が長い時間を掛けて営々と築いて下さいました人と人とのネットワークの有難さと、その力に大いに助けていただき、そのお陰で大過なくスムーズに年会の進行を進めることが出来ました。

いよいよ学会が始まると、各会場の口演がスムーズに滑り出すかを確認できれば、ほっと一息つくことが出来ます。次は、新しい企画を幾つか動かしましたので、その企画にどれだけの参加者があるかが気になります。幸いどの会場にも多くの聴衆が入り、活気のある学会になりました。特に当日会員の方が約５００名と、多く参加され主催者側としては大いに助かりました。

新型インフルエンザの流行した昨年に開催されました糖尿病学会は欠席者が多く１億円弱の莫大な赤字を出し、糖尿病学会が補填したと伺っています。ただただインフルエンザが流行しないことと、スタッフが風邪を引かないことを祈っておりました。幸いにして昨年のような大流行もなく、スタッフも元気に学会に臨むことが出来ました。

教室員全員の強力なバックアップがなければこのような大きな学会を主催することは出来なかったと思います。教室関係者の皆様をはじめ、洽楽会会員の皆様のご助力に深く感謝いたします。

Vancouver で開催された国際高血圧学会の様子

９月末から１０月初めにかけカナダの太平洋側のバンクーバーで国際高血圧学会が開催されました。２年に一度、世界の各地で開催されています。今回は冬季オリンピックが開催された後になります。大陸横断鉄道の敷設に多くの中国人が関与した関係で中国人が多い街だそうです。そのため中華料理の良い店がたくさんあります。バンクーバー近郊には多くの島があり、行き来に水上飛行機の利用が発達しています。天候も晴れ

たり曇ったりで大きく崩れることもなく、気温も１５度前後で過ごしやすい時期でした。
　大変驚いたことは、学会会場が閑散としいたことです。米国企業の学会への支援の法律が変更になったようで、米国から今までのように顎足付で来れなくなった様で、米国からの参加者が激減し、ポスター会場では米国からの演題のキャンセルが目立ち、あちらこちらで歯抜けの状態で興ざめしました。口頭発表の会場に数十人の聴衆しかいないことも多く、展示場もボールペンをはじめメモ用紙など何も配ってなくて閑散としていました。えらい変わりようで、アジアと欧州からの参加者が目立っていました。この影響が日本にも波及してこないことを願っています。

夏の酷暑

今年の夏の暑いことと言ったら尋常ではありませんでした。8 月 18 日から 9 月 2 日まで雨も降らずに連日の晴れ間が続き、大阪の日中の最高気温も 35 度を超える日が続きました。気象庁の発表する気温は、今は小学校にもない百葉箱の涼しい所の温度です。ビルの谷間や舗装道路では優に 40 度から 50 度近くに達します。職場は冷房が効いており凌ぎ易い環境ですが、土日に自宅で過ごすと信じられないほどの暑さです。シエスタの習慣を関西にも導入してもらいたいほどです。今年は熱中症の話題がよく出てきました。自宅で空調もなしで過ごしていると本人が自覚しないで知らないうちに熱中症にかかっていることが多くあります。高齢者の熱中症には脱水によるものが多いのですが、夏の暑さで食欲がなくなり食事を十分取っていないこともあります。食事は摂れているか、塩は摂れているか、もちろん水は十分に取れているか。バテてくると食欲はなくなり、ついつい、のど越しの良い麺類に頼りたくなります。脱水により、血液中のナトリウムの濃度が高くなったり、低くなったりして意識がはっきりしなくなってきます。すると自分の状態が認識できなくなり自己防衛能力が衰えて十分な水分の補給や食事が出来ず益々熱中症の症状が悪化します。今年の夏は消費電力の上昇による電力不足の報道がなかったと思います。まじめに協力して冷房機の使用を我慢して熱中症にでも罹ったら大変と考えて宣伝をやめたのではと考えてしまいます。
１０月にはいるとようやく平年の気温に落ち着き一安心です。お米の作柄は良好だそうですが、野菜類をはじめ、果物のりんご、栗、柿、さらには秋刀魚などの秋の味覚は値上がりするようで、夏の異常気候のとばっちりは暫らく続きそうです。
去年は新型インフルエンザの流行で大騒ぎでしたが、今年もインフルエンザは流行します。新型インフルエンザを含んだワクチンもすでに準備されていると思いますので、予防接種をすることも大事なことかもしれません。皆様も健康にはくれぐれもお気をつけください。

『卒業・・』

薬理学教室　講師
中尾　隆文

薬理学教室に来たのは、特に考えがあってのことではありませんでした。

臨床系の教室で大学院生活を終え、血液内科の後期臨床研究医として臨床業務が半分、基礎研究が半分という多忙で中途半端な日々に疑問を感じていた時に、当時の血液内科の教授をつとめておられた巽典之先生から「岩尾先生のところで人を探しているらしいから行ってみないか？」と勧められたのがきっかけでした。血液内科の先輩で学位を薬理学教室で取得された先生のお力添えもあり、2000年7月より歴史ある薬理学教室の一員に迎えていただくことができました、と言えば聞こえがよいのですが「潜り込んだ」というのが実情でしょうか。と申しますのも、医学生時代は運良く薬理学の履修年度が山本研二郎先生の御退官の年に当たり単位が保証されていたため、授業はおろか実習でさえも出席した記憶が殆どなく、卒業後も血液内科の臨床医、わずかに携わっていた研究分野も白血病患者検体を用いた臨床研究と、薬理学とは全く接点の無い人生を送ってきたからです。薬理学教室のメインテーマは循環器と聞いていたので、すっかり循環器薬理に関する研究を行うものだと思い込み、付け焼き刃で心臓や血管の勉強をしてきた私に初対面の岩尾先生は一言、「薬理、ましてや循環器にこだわる必要は全くない、何の研究をしても良い。自分の研究分野で業績を重ね、その分野で一家を構えることが君の仕事や」とチャンスを与えて下さったのでした。

「なんて懐の深い研究室だ」と感動したものの「これは少し困ったことになった」と言うのが正直な感想でした。今まで指導教官の言う通りに実験してきたことはあっても、自分でテーマを考えて実験を組み立て、論文を書くといった経験をしたことは全く無かったからです。それからの2年間はとにかく自分の知識と教室にある実験技術でできることを過去の論文と首っ引きになりながら考え、教室に在籍しておられた教員の先生方や大学院生に実験手技を教えてもらい、どうにかこうにか研究をまとめ上げて論文投稿にこぎ着けることができました。今から考えると拙劣な研究で、今の私ならもっとも忌み嫌うところの「論文を書くことが目的の研究」といったものでしたが、初めて自分が correspondence author となった論文であり、国際学会の young investigator's award にもノミネートされたりしたので、当時は「この世界でやっていけるかも・・・」と大いに勘違いしてしまいました。

次に岩尾先生が与えてくれたチャンスは「ここでは研究分野の違う君を誰も指導できないから、外国の一流の研究室へ行って勉強してこい」というものでした。研究室探しには血液内科の日野雅之教授のお力をお借りし、行き着いた先は米国サンディエゴにあるUCSD、血小板造血に関して世界的に有名な研究室でした。ここで大阪市立大学在外研究員として世界各地から集まる優秀な研究者たちと共に切磋琢磨し、基礎研究のデータがダイ

ナミックに、しかし粛々と積み重ねられ、論文へと昇華されていく様子を目の当たりにすることができました。研究室のボスである Kenneth Kaushansky 教授の研究データに対する真摯な向き合い方と、電話一本ですぐに共同研究が決まり最新のデータのやりとりが行われる米国方式が非常に印象に残っています。また、同行した家族にとっても 2 年間のサンディエゴ生活はかけがえのない思い出となりました。

帰国後はよく言われることですが、米国に滞在していたときと同じように研究を進めていくことの難しさを実感しました。渡米前と比べると研究以外の仕事も格段に増え、自力では多額の研究費の獲得はままならないながらも、米国で知己を得た研究者たちと連絡を取り合いながら、周囲の人たちに支えられて何とか研究を進めていきました。帰国翌年には日野教授のご厚意で市大病院の血液内科外来を担当させていただくことになり、患者検体を用いた多発性骨髄腫の腫瘍マーカー開発という後の研究テーマの素地を作ることができました。同時期に医薬品・食品効能評価センターの副センター長も拝命し、これまで全く縁の無かった治験をはじめとした臨床試験の世界に足を踏み入れることになったのも、自身の臨床研究を遂行する上で非常に良い経験となりました。思えばこれらの仕事も、帰国後の仕事に行き詰まりを感じていた私に対して、周囲の先生方が与えてくださったチャンスであったのかもしれません。

岩尾先生をはじめとする周囲の方々に支えられつつ研究を続けてきましたが、ここ数年は自分が基礎研究の世界で自らの足場を固め、後世の医学に貢献できるような論文を生産し続けるには実力不足であることを痛感するようになりました。また血液内科外来を通じて再び出入りするようになった臨床現場への思いも断ちがたく、2010 年 3 月で薬理学教室を辞し、臨床医へと復帰することになった次第です。

研究業績で教室に貢献できたとはとても言えず、諸先生方に与えられた数多くのチャンスを生かすことができなかったことには内心忸怩たる思いがあります。しかし基礎研究も留学も医薬品・食品効能評価センターでの仕事も、臨床医として仕事を続けていくのに無駄な経験は一つもありませんでした。薬理学教室出身で、一足先に臨床現場で活躍しておられる多くの先生方とのご縁も非常に貴重なものです。来年 4 月からは市中病院で血液内科医として造血器悪性疾患をはじめとする血液内科の診療に従事する予定ですが、この 10 年余りの間に教室で得たものをこれからの仕事に生かし、社会に還元することがお世話になった方々へのせめてもの恩返しであると考えています。

最後に岩尾先生をはじめとする諸先生方と、私に薬理学教室へ進むきっかけを与えてくださり、本年 11 月・・日にご逝去された巽典之大阪市立大学名誉教授に心からの感謝の意を表して筆を置きたく存じます。本当に長い間、有り難うございました。

『新人紹介』

M2 山下 直人、南野 優子、文 沙卿

同期のいないという厳しい状況の中で、セミナーにも粘り強く取り組み、持ち前の負けん気の強さで早く先生方に認めてもらおうと日々の努力を怠らない、素晴らしい一年生です（少し抜けているところもありますが･･･）。そんな山口さんに自己紹介をして頂きたいと思います！
それではどうぞ！

山口麻貴（やまぐち まき）

今年から薬理の教室でお世話になっています。
生まれも育ちも堺です。去年までは和歌山県の山の中で遺伝子工学（主に発生）を勉強していました。
大学院進学にあたり、病気や薬の勉強がしたいと思い分子病態薬理学教室の門をたたきました。
現在は天王寺の都会さに、こんなに便利なところで生活していて先は大丈夫だろうか？とちょっと恐怖を覚えています。

好きなことは、寝ること、食べること、遊ぶこと。苦手なことは、早起き。
最近びっくりしたことは、架空のモルモット脱走事件の犯人にされたこと。
将来の夢は、医薬品の開発などに携わって人の健康に貢献できればいいなと思っています。

研究室生活 9 ヶ月目にして思うことは、先生たちの教育熱心さと先輩たちの凄さ。
岩尾先生をはじめとして泉先生、中尾先生、三浦先生は、ゼミ発表での私の下手糞な話でもちゃんと最後まで聞いて、いろいろ指導してくれます。中でも塩田先生は…今年に入って白髪が増えてないか心配なほどに、よく面倒を見てくださって…本当にありがとうございます。

そして先輩方…巧みにムチと飴を使い分け（ほぼムチ??）いろいろ教えてくれる田中さんと高橋さん。テキパキと仕事をこなす手際のよさにこっそり憧れています。
そして巧妙で恐ろしいドッキリを企画（モルモット脱走事件）して私を恐怖させた M2 の先輩方…文さん、山下さん、南野さん。普段は、おちゃめでもキめるところはしっかりキめる、やるときはやる。その姿をこっそり尊敬しています。
私も先輩方に少しでも近づけるように成長したいと思っています。
そして卒業前には、テキパキ動ける仕事の出来る女を目標にこれから 2 年間（1 年半）頑張ろうと思っています。よろしくお願いします。

お世話になった先生方へ

M2　南野　優子、文　沙俐、山下　直人

岩尾先生へ

二年間本当にお世話になりました。抄読回や実験のディスカッションの際には非常に厳しい先生でしたが、昼食やお酒の席ではただただ可愛い御大でした。そんな先生にはたくさんの事を教えていただきました。「違うんや」で始まる先生の青空教室では、野菜の値段から宇宙旅行まで、まるで生き字引のような先生でしたね。アンジオテンシンのこととなると、手がつけられませんでしたが……。笑

こんなふうに先生と話せるのも残り僅かとなり、非常に寂しい思いでいっぱいですが、この二年間で養った知識を余すことなく発揮し、周囲を魅了する社会人になってみせます。

先生率いるこの薬理学教室に巡り会えた事を幸せに思います。この二年間は一生忘れません。

二年間ありがとうございました。

泉先生へ

二年間ありがとうございました。先生はいつも優しく、どんなことでも丁寧に教えてくださいました。また、先生の実験に取り組む姿はとてもすごいと感じていました。特にオペの際の集中力、そして手技！私たちの知る限りではダントツです！また、薬理学会や、市大フォーラムなど、教室主催の学会や研究会を影で引っ張っていく先生はまるで小沢一郎のようでした。笑

薬理の裏ボスとして、メリハリのある教室を作っていってください。

本当にありがとうございました。

中尾先生へ

先生！いい加減にしてください！三人とも限界です！

……でも大好きです！

抄読回ではとても怖く、先生に認めてもらおうと必死で原稿を作りました（その原稿もボロかすに言われましたが……笑）。そんな先生とも日が経つにつれて打ち解ける事ができ、たくさん飲みに連れて行ってくれましたね（とりせん、とりせん、とりせん、まいど、とりせん）。治験の副センター長として IRB を進行している姿は、本当にかっこよかったです！なんだかんだ言って尊敬しています。私たちが社会人になったら飲みに行きましょう！今度は私たちがごちそうします。

二年間ありがとうございました。

塩田先生へ

二年間ありがとうございました。三人とも先生にはお世話になりっぱなしで、感謝の気持ちでいっぱいです。言うなれば先生は薬理の iPS です。というのも機器の使い方や、試薬の取り扱い、実験のトラブルシューティングや就職活動、さらには中尾先生のお世話まで挙げればきりがないほど先生のキャパは大きいものでした。また冗談を言ってふざけあったことがとても楽しかったです。おっさんと呼ばれたり、村民と呼ばれたり…。でもそんな下ちゃん先生が大好きです！今後は 12S にとどまらず 80S までいっちゃって下さい！

本当にありがとうございました！

三浦先生へ

二年間本当にお世話になりました。先生はひょこっと現れてはお酒と共に去る。まるで「親戚のおじさん」のようでした。他の先生方とは異なり、先生に怒られた記憶はありません。ですので、先生が教室におられるときは院生一同ほっこりした気持ちになりました。そんな癒し系の先生にはゼミで何度も助けていただきました。薬理の先生方にボコボコにされながら、先生が手を差し伸べてくれるのを実はこっそり期待していました。笑

これから薬理に入ってくる後輩たちに対しても、頼りになる親戚のおじさんでいてください。

本当にありがとうございました！

一言近況報告(敬称略)

2010年6月5日(土)に、上海楼(横堀店)にて、洽楽会の小宴を開催しました。
御案内葉書に添えた一言近況報告にご返信いただいたものをここに掲載します。
皆様、お忙しい中ありがとうございました。

・安部　陽一　　薬理学会年会主催おめでとう。当方は、退職后５年目に入りました。大阪、高松５０：５０の生活を続けています。

・池本　文彦　　武蔵野大の客員教授は続けますが、京大・再生医研のプロジェクトは３月に終了し、IRB委員長は終了です。

・泉家　康宏　　熊本で臨床と実験を継続しています。今後も共同研究させて頂けるよう精進します。

・伊藤　勝彦　　皆様のおかげで３月の薬理学会年会でマイクロミニピッグのシンポジウム大成功でした。さらに大きく展開させて行きたいと思います。宜しくお願いします。

・上西　泰次
　　恵子　　地域のホームドクターとして働ける間は、働きたいと申しますので、２人で１６３才になりましたが、未だボチボチ開業続けております。

・榎原　恒之　　御無沙汰を致しております。十三に行き３年目を迎えました。休日は息子の野球のおつきあいが多く、なぜかまっ黒な今日この頃です。

・大田垣　京子　　８０才に手が届く年令になりましたがお陰様で、毎日恙がなく過ごしております。住居の改修で手が抜けませんので、残念ですが、欠席いたします。御盛会を祈っています。

・奥西　秀樹　　少しは体調よくなってきたようです。ご盛会を祈ります。

・笠井　貞夫　　７６才の老齢にむちうって診療にゴルフに精を出しています。目下のChallengeは診断学とGolf swingです。

・川本　由貴子　みなさま、お久しぶりです。お元気ですか？私は、入社してまだ１ヶ月くらいしかたっていませんが徐々に慣れてきました。日々仕事をこなすことに精一杯ですが、周りの方々が優しく接してくださるので日々楽しくやっています。

・日下部　裕美　社会人３年目、上司も変わり、新たな気持ちで仕事を頑張っています。GWにはアンコールワットに行ってきました。世界遺産のすばらしさに心打たれました。また、伊豆、箱根、南関東、千葉など東京勤務を活かし遊びにも精を出しています。近くに来られた際にはぜひご一報を!!

・楠山　元子　皆様お元気でいらっしゃいますか。

・久保田　宏子　元気で“源氏物語”を読む会で勉強中です。会の御発展お祈り致します。

・杉田　清美　薬理学会の御主催、おめでとうございました。色々御準備でお疲れになられたことと存じます。御自愛下さい。私の方は、３月に父が亡くなり、母も検査入院の予定となったりで、一気に色々押し寄せてきた感じです。

・杉原　舞有子　元気に頑張っています。

・田代　孝一郎　本年に学会開催されて大変なことだったと思います。お疲れ様でございます。

・立本　泰祥　東京でむかえる春も４回目となりました。元気に過ごしています。

・田中　基晴　色々とお世話になっております。参加できませんが、皆様の御健勝お祈り申し上げます。色々な新薬の薬理を担当しています。

・塚原　和子　大阪市役所に移って１年経ちました。今まで全身どっぷり「天天王寺モード」に浸っておりましたので、まだまだ淀屋橋のオフィス街には気おくれしています。

・手島　皓一　先般の学会、大変御立派な運営で、大成功誠に御目出度うございます。大変お疲れのことだったと思います。
小生は元気ですが脚の調子が悪く、失礼致します。御盛会を祈ります。

・中島　輝子　有床診療所と外来のみの診療所にかかわっております。６７才になりましたが、まだまだ元気で少しでもながく皆様へおかえしが出来ればと相変わらずバタバタいたしております。

・中西　均　年金生活に入り、名古屋市外への外出はなくなりました。
先生方の御健康をお祈りしています。

・中村　嘉宏　元気にやっております。皆様の御活躍を祈念致します。

・中村　敏子　独法化で職場の名称が少し変わりました。
薬理学会、大盛況であったとのこと、おめでとうございました。参加できず残念でした。

・西村　敬治　順調です。少し太り気味ですが･･･

・西山　好樹　馬齢を重ねております。御盛会を祈り上げます。

・萩原　善行　元気でやっております。

・疋田　優子　現在はモニターとして抗肥満薬の開発に携わっており、充実した日々を送っております。

・樋口　純子　今年は初挑戦で南半球３ヶ月の旅に出かけます。ご発展をお祈りしております。

・蛭間　政和
佳子　馬齢を重ねて････
・藤田　明子　６月下旬の出産にむけ、自宅安静の日々がしばらく続いています。またお目にかかれる日を楽しみにしています。

・船江　良彦　ゴルフや旅行を楽しんでいます。

・細木　和　　夏冬の季節は特に注意をしながらストレスのかからない生活を送っています。(住民票はまだ豊中のままです)

・前田　芳子　　腰痛があるので今は何もしていません。

・松浦　健司　　元気でやっています。

・松島　成夫　　老人性難聴のため会話が出来にくくなって困っております。

・松原　知子　　５月１６日(日)に広島にて開催された「第４回１０００人のチェロコンサート」に参加し、新聞にチラッと載りました!!

・松村　久子　　ショパンの足跡を辿る旅のため欠席いたします。又次回楽しみにしています。皆様によろしくお伝え下さい。

・松本　嘉子　　ご丁寧に毎年お誘い下さいましてありがとうございます。一応元気に暮らしています。お若い皆様の御健勝をお祈り申し上げます。

・宮崎　瑞夫　　学院長業(専ら行事への顔出し)なんとかこなして居ります。先月はアイスランドの噴煙のせいで旅行が中止となりすねておりました。

・安田　俊吉　　老兵は未だ死なず　消えるのを待つ。

・矢野　昌彦　　医療機器の製品開発に従事しております。

・山添　裕康　　元気に毎日送っています。

・山田　明男　　家内も私と同じく股関節の手術をして、夫婦ともども転倒防止のため、杖をついて歩いています。

・吉本　蓉子　　７０才の大台を越えて大分になりますが、若い人達とシャンソンコンサートを開いたり、旅行に行ったり、余暇の人生を楽しんでいます。

2010年の出来事

修士の卒業生は社会人１年生として元気に頑張っています。

川本由貴子　クンタイルズ・トランスナショナル・ジャパン株式会社に就職
第８３回日本薬理学会年会優秀発表賞

杉原舞有子　堺市役所に就職

修士の卒業予定者は３名が居り、各自が就職も内定し研究に励んでおります。

南野優子　中尾先生の下で修士論文をまとめています。

文　沙卿　塩田先生の下で修士論文をまとめています。

山下直人　泉先生の下で修士論文をまとめています。

博士課程の新入生は１名

田中昌子　皆様よくご存知の田中昌子さんです。3月まで研究補助員として塩田チームの要の役割を果たして無くてはならない人でしたが、今後は大学院生の要でもあります。

修士の新入生は１名で先輩を見習って研究と就職活動に頑張っております。

山口麻貴　近畿大学生物理工学部を卒業して修士課程に入学しました。塩田先生の下で研究に励んでおります。就職活動にも力を入れて頑張っています。

高橋克之　岡山大学医歯薬総合研究科修士課程を修了し市大医学部附属病院の薬剤師の仕事をしながら、大学院研究生として研究に来られています。

教室秘書

栄藤恵　神戸女学院大学文学部を卒業して、この春から教室付きの秘書としてこられました。

山中伸弥先生　新聞やテレビでご覧になられたように山中先生が文化功労者に選ばれました。さらに京都賞先端技術部門、バルサン賞を受賞されました。益々のご活躍を祈っております。

第18回　大阪市大フォーラム

2010年8月6日（金）、あべのメディックス6階研修室におきまして夏の研究会を開催致しました。
発表演題11題、そして活発な質疑応答。
皆様のお陰を持ちまして盛会となりました。ご多忙の折、また遠路、本当にありがとうございました。

プログラム（敬称略）

開会の辞
　岩尾　洋（大阪市立大学大学院医学研究科　分子病態薬理学）

1. 13:10～13:30
演者　田中　亮輔（大阪薬科大学　病態分子薬理学*松村　靖夫）
演題　虚血性急性腎障害に対する虚血プレコンディショニング処置の保護効果；
　　腎交感神経系との関連について

2. 13:30～13:50
演者　山下　直人（大阪市立大学大学院医学研究科　分子病態薬理学*岩尾　洋）
演題　炭酸ガスミストは下肢虚血後の血流改善を促進する

3. 13:50～14:10
演者　岡野　元紀（大阪薬科大学　薬品作用解析学*大野　行弘）
演題　脳内Fos発現を指標とした注意欠陥/多動性モデルSHRの病態解析

4. 14:10～14:30
演者　人見　浩史（香川大学医学部　薬理学*西山　成）
演題　アンジオテンシンⅡによる細胞内pH変化を介した臓器障害機構の解明

5. 14:50～15:10
演者　原田　悠耶（大阪薬科大学　薬品作用解析学*大野　行弘）
演題　脳アストログリアに局在する内向き整流性カリウムチャネルKir4.1のてんかん
　　病態研究:大発作てんかんモデルNoda epileptic rat (NER)における発現解析

6. 15:10～15:30
演者　田和　正志（滋賀医科大学医学部　薬理学*岡村　富夫）
演題　冠血管弛緩反応に及ぼす低酸素化あるいは低酸素-再酸素化の影響

7. 15:30～15:50
演者　寺田　亮（大阪薬科大学　薬品作用解析学*大野　行弘）
演題　Pentylenetetrazole キンドリングモデルにおけるシナプス小胞膜蛋白
SV2A の発現解析

8. 15:50～16:10
演者　文　沙俐（大阪市立大学大学院医学研究科　分子病態薬理学*岩尾　洋）
演題　疾患プロテオミクスの効率的活用に向けた実験系の確立

9. 16:25～16:45
演者　山野　範子（徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部　薬理学*玉置　俊晃）
演題　マウス ES 細胞から中胚葉への分化過程において Akt の活性化により誘導
された始原生殖様細胞とその可塑性

10. 16:45～17:05
演者　長谷川　健一（大阪薬科大学　病態分子薬理学*松村　靖夫）
演題　腎不全モデルへの著明な減塩が造影剤腎症発症の誘因となる

11. 17:05～17:25
演者　南野　優子（大阪市立大学大学院医学研究科　分子病態薬理学*岩尾　洋）
演題　質量分析計を用いた多発性骨髄腫の腫瘍マーカーの開発

閉会の辞
岩尾　洋

******御出席者名簿（敬称略、順不同）******
当日受付にて御記帳いただいた方を掲載しております。

☆大阪大谷大学　臨床薬理学講座
雪村　時人　　山形　雅代　　筒居　秀伸　　丹波　貴雄　　盆子原　唯
米原　哲也

☆大阪薬科大学　病態分子薬理学
松村　靖夫　大喜多　守　青木　桃子　伊藤　講平　小山　武志
小山　真季　佐藤　晃大　鈴木　理恵　先﨑　郁美　田中　亮輔
坪田　亜香里　西岡　慧　西村　友里　長谷川　健一　細川　知基
山中　里紗　吉岡　敏孝　吉川　侑里

☆大阪薬科大学　薬品作用解析学
大野　行弘　今奥　琢士　江川　実加　岡野　元紀　奥村　貴裕
佐藤　真穂　新　範之　多田羅　絢加　寺田　亮　長尾　侑紀
原田　悠郷　増井　淳

☆香川大学医学部　形態・機能医学講座　薬理学
西山　成　人見　浩史　北田　研人

☆滋賀医科大学　薬理学講座
今村　武史　田和　正志

☆徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部　薬理学
玉置　俊晃　土屋　浩一郎　富田　修平　石澤　陽介　木平　孝高
池田　康将　山野　範子　今西　正樹

☆奈良県立医科大学　薬理学教室
吉栖　正典

☆兵庫医療大学　薬学部医療薬学科
小渕　修平

☆武蔵野大学　薬学研究所
池本　文彦

☆大阪市立大学大学院医学研究科　薬効安全性学
三浦　克之

☆大阪市立大学大学院医学研究科　分子病態薬理学
岩尾　洋　泉　康雄　中尾　隆文　塩田　正之　田中　昌子
南野　優子　文　沙俐　山下　直人　山口　麻貴

2010年　論文発表

1. Shiota M, Kusakabe H, Izumi Y, Hikita Y, Nakao T, Funae Y, Miura K, Iwao H.
   Heat shock cognate protein 70 is essential for Akt signaling in endothelial function.
   Arterioscler Thromb Vasc Biol. 2010 Mar;30(3):491-7.Epub 2009 Dec 17.

2. Izumi Y.
   A new model of Takotsubo-like left ventricular dysfunction in cynomolgus monkey.
   Nippon Yakurigaku Zasshi. 2010 Aug;136(2):103-6

3. Miyoshi N, Horiushi M, Inokuchi Y, Miyamoto Y, Miura N, Tokunaga S, Fujiki M, Izumi Y, Miyajima H, Nagata R, Misumi K, Takeuchi T, Tanimoto A, Yasuda N, Yoshida H, Kawaguchi H
   Novel microminipig model of atherosclerosis by high fat and high cholesterol diet Established in Japan.
   In Vivo. 2010 Sep-Oct;24(5):671-80

4. Shiota M, Saiwai H, Mun S, Harada A, Okada S, Odawara J, Tanaka M, Iwao H, Ohkawa Y.
   Generation of a rat monoclonal antibody specific for heat shock cognate protein 70.
   Hybridoma(Larchmt).2010 Oct;29(5):453-6.

5. Machida Y, Kitamoto K, Izumi Y, Shiota M, Uchida J, Kira Y, Nakatani T, Miura K.
   Renal Fibrosis in Murine Obstructive Nephropathy Is Attenuated by Depletion of Monocyte Lineage,Not Dendritic Cells.
   J Pharmacol Sci. 2010 Nov 26.

6. Kaneko N, Itoh K, Sugiyama A, Izumi Y.
   Microminipig, a non-rodent experimental animal optimized for life science research.
   J Pharmacol Sci 2010[in press]

7. Sugiyama A, Nakamura Y, Akie Y, Saito H, Izumi Y, Yamazaki H, Kaneko N, Itoh K.
   In Vivo Proarrhythmia Models of Drug-Induced Long QT Syndrome; Development of Chronic Atrioventricular Block Model of Microminipig.
   J Pharmacol Sci 2010[in press]

8. Kawaguchi H, Miyoshi N, Miura N, Fujiki M, Horiuchi M, Izumi Y, Miyajima H, Nagata R, Misumi K, Takeuchi T, Tanimoto A, Yoshida H.
Microminipig, a Non-Rodent Experimental Animal Optimized for Life Science Research-Novel Atherosclerosis Model induced by High Fat and Cholesterol Diet.
J Pharmacol Sci 2010 in press

9. 内皮機能における Heat shock cognate protein 70(Hsc70)の役割
血管 33巻2号 49-54,2010
塩田 正之, 泉 康雄, 中尾隆文, 岩尾 洋

10. 坂田 利家,金 良一,寒川 慶一,岩尾 洋,森口 里利子,高田 敬士
コウジン末による不定愁訴改善効果 単施設受診患者を対象にした二重盲検法による検討
日本医事新報 第4509号 49-54,2010

学会発表

塩田正之、川本由貴子、泉康雄、中尾隆文、岩尾洋
スタチンの血管内皮機能亢進作用への FGF2 の関与
第39回日本心脈管作動物質学会(名古屋2月5日)

Izumi Y, Nakamura Y, Yoshiyama M, Iwao H.
Pravastatin accelerates ischemia-induced angiogenesis through AMP-activated protein kinase
第74回日本循環器学会学術集会 3月5-7日 京都

川本由貴子(年会優秀発表賞)、塩田正之、泉康雄、中尾隆文、三浦克之、岩尾洋
FGF2を介したプラバスタチンの血管新生促進作用
第83回日本薬理学会年会(大阪3月16日～18日)

Izumi Y, Nakamura Y, Hanatani A, Muro T, Yoshiyama M, Iwao H.
Role of c-Jun on rat cardiac hypertrophy induced by angiotensinII
The XXth World Congress of the Internal Society for Heart Research May 13-16 Kyoto

山下 直人、泉 康雄、田中 昌子、文 沙俐、南野 優子、塩田 正之、中尾 隆文、三浦 克之、岩尾 洋
炭酸ガスミストが下肢虚血後の血流を促進する
第117回日本薬理学会近畿部会 7月8日 徳島

泉 康雄、山崎 貴紀、中村 泰浩、花谷 彰久、室生 卓、葭山 稔、岩尾 洋
高血圧性心肥大に対する抗線維化薬の効果
第33回日本高血圧学会総会 10月15-17日 福岡

泉 康雄、山下 直人、田中 昌子、南野 優子、文 沙俐、塩田 正之、中尾 隆文、岩尾 洋
虚血性疾患に対する炭酸ガスの血流および代謝機能改善効果
第20回日本循環薬理学会 11月11日 札幌

泉 康雄、山下 直人、山崎 貴紀、中村 泰浩、塩田 正之、中尾 隆文、葭山 稔、岩尾 洋
炭酸ガスミストによる虚血性疾患に対する新たな治療法の探索
第31回日本臨床薬理学会年会 12月1-3日 京都

Shiota M, Izumi Y, Tanaka M, Iwao H.
Heat shock cognate protein 70(Hsc70) is essential for Akt signaling in endothelial function.
第33回日本分子生物学会年会 12月7-10日 神戸

編集後記

はじめまして。編集後記を担当させていただきます栄藤恵です。
今年の3月に神戸女学院大学を卒業して、4月からこちらの薬理学教室の秘書としてお世話になっております。食べることが大好きな薬理学教室に来て半年以上がたち、体重が大幅に増加してしまいました･･･
分からないことや慣れないことが多く、先生方をはじめ多くの方々に御迷惑をおかけしており、皆様に助けて頂きながら日々過ごしております。
頼りない私ですが、これからも宜しくお願い申し上げます。